

家庭科の男女共修をすすめる会

会報

'84 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11

婦選会館内 〒151

振替 東京九一―九一八九一

発行 一九八四年五月一九日

共修実現へ

さあ、総力結集を!!

◆文部省もついに態度を変えました!

文部省も、「差別撤廃条約の批准の妨げにならないように」と、家庭科のあり方を見直すことを国会で表明しました(6・7ページ参照)。けれども、共修への姿勢は今のところ極めて消極的です。完全な共修の早期実現をめざして総力を上げましょう!

◆一九八四年度の運動方針が決まりました!

四月七日、婦選会館で開かれた一九八四年度総会で、「差別撤廃条約の批准に向けての運動に力を結集する」という方針が決まりました(2ページ参照)。

◆共修へもうひと息!

六・一六集会

第一部 共修問題、いま国会で

第二部 いま、どうする?!

△とき 六月十六日(土) 一時半～五時半
△ところ Vみやこ荘(国電目黒下車徒歩五分)
△参加費 V五〇〇円(資料代を含む)

文部省では、家庭科をどのように改めるか今年中に結論を出すと言っています。今が山場です! 国会の報告をきいたあと、運動のすすめ方について話し合い、運動を盛り上げましょう!

もくじ

共修実現へ、さあ総力結集を……………	(1)
一九八四年度総会報告……………	(2)
シブシブ家庭科を見直す文部省……………	(6)
文教委員会への働きかけ……………	(8)
ここでも「家庭科」との出会い……………	(9)
日教組でも署名運動……………	(9)
「教育改革」の動き批判……………	(10)
We'84春の公開ゼミナール……………	(11)
国際放送で共修の必要性訴える……………	(11)
読売「論点」に投稿……………	(11)
世話人会報告……………	(12)
連絡会報告……………	(13)
企画推進会議も首相に要望……………	(13)
ESCAP婦人会議から……………	(14)
アジア太平洋地域国際シンポジウム……………	(14)
NGO交流会に参加して……………	(15)
エスカップ民間フォーラムで……………	(16)
東京都婦人問題国際シンポジウム……………	(17)
東京での活動……………	(18)
「東京の婦人問題事情」……………	(18)
労働省婦人問題懇談会に出席して……………	(18)
T君へ……………	(19)
共修調査高校編……………	(20)
署名集まる……………	(22)
お願い……………	(22)

一九八四年度 総会 報告

一九八三年度運動のまとめ 一九八四年度運動方針

報告・提案 石川 由紀

一九八四年度運動方針

●基本方針——全国の中学・高校で家庭科の男女共修を実現させるために、婦人差別撤廃条約の批准に向けての運動に力を結集する。

●具体的な活動

- ①国会及び行政へ積極的に働きかける。
- ②署名活動を通じて広くアピールするとともに文部省に要請する。
- ③男女共修を教育課程に盛り込ませるために全国決起集会を開き、世論に訴える。
- ④日本大会連絡会と共に運動をすすめる。
- ⑤各県教組の婦人部に働きかけ、協力を求める。
- ⑥他団体と連帯につとめ、共に運動をすすめる。
- ⑦諸団体の集会に参加し、ちらしを配るなど

アピールする。

⑧マスコミ、ミニコミ等に積極的に働きかける。

⑨共修家庭科の内容を検討する。

⑩パンフ、リーフ等当会刊行物を積極的に販売・配布する。

⑪男女共修に役立つ資料、教科書、出版物の紹介をする。

⑫世話人会を定期的に開催し、記録をのこす。

⑬世話人の全国交流会を催す。

⑭会報を年四回刊行し、情報の交換につとめる。

⑮財政基盤の確立の為、会費の滞納者をなくし、カンパを集める。

一九八三年度活動の総括

①文部省は差別撤廃条約批准に関して家庭科女子のみ必修が妨げとなることを認め、改める姿勢となった。

②婦人差別撤廃条約との関係で、他の婦人団体と連帯し、あるいは単独活動として、総理府、文部省、外務省他多方面へ積極的に働きかけた。

③新しいリーフ作成や新パンフの企画、また新たに署名運動を開始するなど活発な展開をみた。

④中学校を中心とした男女共修の全国交流会を持ち、成功した。

⑤一・二一集会を中心としてマスコミ等に強く働きかけ取り上げられるなど、関心を呼んだ。

⑥会員が参加する集会や研究会で常にパンフやリーフの販売・配布に努力し、アピールにつとめた。

★一九八三年度運動方針（会報83夏号参照）にあったことはほぼ実行。しなかったことは「国連婦人の十年推進議員連盟への働きかけ（1-1）」「各地の婦人情報センター等との情報交換（3-1）」「行政の不当な介入や共修妨害の調査、抗議（4-1）」「各地の世話人中心の集会（4-1）」「不十分だったのは「会員拡大（2-1）」「会費滞納者をなくす（6-1）」。

★一九八三年度運動方針にはなかった新しい活動は、◆「家庭科があぶない」の新リーフ作成 ◆署名活動 ◆中学向新パンフ企画作成 ◆通信教育で唯一家庭科の教員免許がとれる日本女子大へ男子も入学許可するよう働きかけ。

◆運動方針についての討論から

- △自治体への働きかけについて▽
- 新しく婦人室をつくるなどもあるので、積極的に働きかけよう。
- 「行政」ということばに自治体も含まれる。△決起集会について▽
- 夏休みにはいろいろな集会に参加してアピールしよう。決起集会は夏休みの前にやろう。
- 世話人の全国交流集会をその前後にやろう。
- 署名を決起集会の決議と一しよに文部省へ持って行こう。
- 修正提案——③の最後に「世論に訴える」ということばを入れる。
- △他団体との連帯について▽
- 修正提案——⑥を新たに加える。
- 共斗できる団体は——大学家庭科研究会、全P研など。
- 働きかけたい団体——家政学会、家庭科教育学会、PTA、ZKK、ほかに、家庭科教育の先生や指導主事に働きかけたい。
- △男性へのアピール▽
- 女性にはわかる人が多くなっている。男性にもアピールする方法を考えたい。
- 男性向パンフをつくっては？（総会のあとの世話人会でリーフレットの作成を決定）

1984年度 予算

提案 馬場 洋子

収入の部	
83年度繰越し金	229,196 円
会費（400人×3500円）	1,400,000
計	1,629,196

支出の部	
① 集 会（4回）	314,880 円
会 場 費	90,880
案 内 状	24,000
謝 礼、交通費	200,000
② 会 報（4回）	556,800
印 刷 費	367,200
送 料	182,000
運 搬 費	7,600
③ 維 持 費	341,600
事 務 所 代	81,600
アルバイト代	260,000
④ 分 担 金	50,000
⑤ 交 流 会 費	100,000
⑥ 通 信 信 費	100,000
⑦ 雑 費	12,000
⑧ 予 備 費	90,000
⑨	63,916
計	1,629,196

◆予算についての討論から

- 会費を上げなければもうやって行けないことはよくわかる。
- 学生には高い。学生と一般と分けてはどうか。
- 魅力があれば高くても入る。アピールのしかたが大切。
- 会員をふやそう。署名してくれる人に入会をすすめよう。
- 集会の費用はその都度独立採算にしては？
- 独立採算では集会参加者の負担が大きくなり過ぎるが、参加費はもう少し高くしてもいいかもしれない。
- 会費二五〇〇円の時期が長かった。もう上げてもいい。
- ★一九八四年度の会費はこうして三五〇〇円と決まりました。

単位：円

収入の部		
	1983年度 入 金	1983年度 予 算
前年度繰越し金	576,276	576,276
会 員	904,900	1,000,000
カ ン パ	70,600	
雑 収 入	78,910	
(集会参加費、会報ect)		
計	1,630,686	1,576,276

支出の部		
	1983年度 支 出	1983年度 予 算
① 集 会	151,360	134,000
〔会場内費状礼〕	23,360 0 128,000	40,000 24,000 70,000
② 会 報	537,370	521,200
〔印刷費〕	302,200 226,900 8,270	332,000 182,000 7,200
③ 維持費	306,600	339,600
〔事務所代費〕	66,600 240,000 0	69,600 240,000 30,000
④ 分担金 (連絡会、ESCAPなど)	54,000	20,000
⑤ 交 流 会	61,090	100,000
⑥ 通 信 費	95,925	100,000
⑦ チラシ (入会案内)	3,500	10,000
⑧ 調 査 費		150,000
⑨ 会 員 名 簿	55,000	50,000
⑩ 雑 費 (封筒、コピー、紙代etc)	69,245	80,000
⑪ 予 備 費	67,400	71,476
〔ビンクリーフレット 署名用紙〕	42,100 25,300	
計	1,401,490	1,576,276
翌年度繰越し金 1,630,686 - 1,401,490 = 229,196円		

一九八四年度 世話 人

提案 青山 和世

青山 和世(東京都)	小野塚サチ子(長岡市)	佐藤美枝子(長野県)	樋口 恵子(東京都)
芦谷 薫(東京都)	香川 敦子(姫路市)	薄 タカ子(福岡市)	前田 朋乃(東京都)
荒井美千子(群馬県)	梶谷 典子(東京都)	立山ちづ子(熊本県)	持田 ナミ(川崎市)
石川 由紀(東京都)	木下 雅子(石川県)	中嶋 里美(所沢市)	森 陽子(大阪市)
伊藤 恭子(川崎市)	木村 温美(福井県)	中山 昌樹(静岡市)	八島 紀子(東京都)
榎本 稲子(浦和市)	桑原 芳子(東京都)	仁ノ平尚子(浦安市)	山下 文明(川崎市)
大嶋 せい(東京都)	駒野 陽子(東京都)	橋本登志子(岐阜市)	和田 典子(東京都)
大原八重子(新潟県)	斎藤 節子(帯広市)	馬場 洋子(東京都)	渡辺 宏介(枚方市)
小田亜佐子(東京都)	佐藤 慶子(山形市)	半田たつ子(東京都)	渡辺 洋子(東京都)

★1983年夏の交流会会計

収 入・参加費	36,000
支 出・	97,090
〔謝礼費〕	54,000
〔会場・印刷費〕	28,000 15,090
	- 61,090

	売 上	支 出
黄 パ ン フ	56,557	増刷(1000部) 42,800
オ レ ン ジ	62,293	
ビ ン ク	64,032	
グ リ ー ン	95,514	初版(2000部) 206,720
家庭科男子にも	105,316	

新しいアピール文

提案 梶谷 典子

新しく印刷する入会勧誘用のちらしのため
のアピール文がきました。今までのもの
と特に違うところは、次のような一節が入っ
たことです。

「そして今、子どもたちの生活能力は極め
て低く、生活の荒廃はすみ、それがいわゆ
る青少年非行増大の一因ともなっています。
また、現在の家庭の悲劇の多くは、父親が生
活に十分参加しないことから起っています」。

共修家庭科の

内容についての話し合い

83秋号掲載の第一次試案をもとにして話し
合いました。

第一に問題になったのは、保健、理科、社
会科など、他の教科のような感じがしないか
どうかでした。「家庭科らしい感じでないけ
ばいけない」という意見がある一方、「従来
の家庭科と違った感じも必要だ」という発言
もあります。

「つめたい感じがする」という声があった

宮本綾子さんの感想

全体の人数は総会にしては少ない
と思いましたが、男性の参加者が二人あり
発言の内容もとてもよく、たのしい感じ
がしました。男性の世話人も四人にふえて

よかったです。

奥さんが留守のとき、家の中のことがわ
からずにまごまごしてしまふ男性を身近に
見ているので、本当に男性のために、早く
共修を実現させたいと思います。

習させるべきだ」「今後の課題」は、『家族』
と関連つけて学習させるべきだ」など。

また、「性のことを教えるのは、今は中学
では遅過ぎる」ということをきかけとして、
家庭科の内容は小・中・高一貫させて考えな
ければいけないのではないかと話し合いまし
た。

世話人会では、この話し合いの結果にもと
づいて、更に検討して「第二次試案」をつく
る予定です。

皆様もご意見をどんどんお寄せください。
大きな問題でも小さなことでも何でも結構で
す。事務局へ郵便で、または世話人に口頭で
どうぞ。

司会 中嶋 里美 記録 梶谷典子
半田たつ子 まとめ

シブシブ家庭科を

見直す文部省

（国会答弁から）

梶谷 典子

条約に触れることをやっと思える

今年になって三回、国会で家庭科の問題が取り上げられました。一月二十五日の参議院決算委員会、三月二十四日の参議員予算委員会、四月十一日の衆議院文教委員会（「会」から五名傍聴）で、文部省は家庭科のあり方を改めることを表明しました。

まず一月二十五日、久保田真苗議員（社会党）の「教育課程に関して差別撤廃条約の批准に見合う対応をするか」という質問に対して、森文相は「家庭科の取り扱いが条約の批准の妨げにならないように」対処したいと答えました。やっと思える「条約には抵触しない」という考えを引っこめたわけです。

中学はあまり問題ではない

三月二十四日、粕谷照美議員（社会党）が具体的な手続きについて質問すると、文相は「高等学校の必修科目をどうするか、関係方面とも十分調整し意見をききながら、条約批

准の妨げとならない方向を見出したい」と回答。一月も三月も、中学のことは問題にしていなかったが、四月十一日、外務省国連局の遠藤審議官は、江田五月議員（社民連）の「高等学校、中学校合わせてというご見解ですか」という質問に「そのように解しております」と答えました。けれどもそのあと文部省の高石初等中等教育局長は「高校と中学を全く同一に論ずるのはどうか」と、中学の問題を軽く考えていることを示しました。

男女同一の扱いであればいい

久保田議員は「条約十條(b)項(同一の教育課程)」、(c)項(男女の役割についての定型化された概念の撤廃)と関連してどう考えるか」と質問したのに、回答は「(b)項に触れる」ということだけでした。江田議員の「教育課程のどのあたりが問題になっているか」という質問には、「条約の第十條、ことに(b)項と(c)項に関連して家庭科が問題になっている」と回答がありました。(どちらも外務省遠藤審議官)。けれども、文部省が(c)項について特に考えている様子はありません。

条約ができなければ問題なかった

ところで、私たちが会議録を見てカチンと来たところがあります。一月二十五日の高石初等中等教育局長の次のような発言です。「今日まで

国内的にはいまのような家庭科の取り扱いが男女平等に反するとか、機会均等に反するという論議を一度も受けたことはなかったわけです。しかし、今回、条約批准という問題に直面して、いま議論の行われているような問題が提起されたわけです」。

世話人会では、この発言はこれまでの国会での議論や国民の声を無視したものだとして、高石局長あてに抗議文を送りました。

三月二十五日には少し様子が違って、森文相は「女性に対する差別だ」というふうな形で私たちのところにもいろいろ意見は来ておりました」と言っています。

※「……」は会議録のことばの通り。差別撤廃と家庭科重視は逆

さて、どういうふうに変更するかが問題ですが、男女とも必修か、選択かということについては、文部省は直接的には何も言っていない。でも、必修を積極的と考えていないことは確かです。「条約批准の妨げにならないようにする」と言ったら「家庭科は大事故だ」という逆の投書がたくさん来た」とか、「廃止するのではなく、どういう形で教科として生かしていくか新たに検討するのだ」(四月十一日文相)というような言い方をしているのですから。

検討委員会を設置

改めるための手続きとしては、一月二十五日には文相も初等局長も「中教審で検討する」という意味の発言をしています。その中教審は凍結ということになってしまいました。

初等局長は三月二十四日には「検討機関を設けて少くとも今年中にある方向を出す」と答え、四月十一日には「検討会議をできるだけ早い機会に発足させたい」「家庭科関係について理解のある関係者、婦人問題についての専門家、一般の学者などから成る協力者会議という形のものを設けてはどうか」と言っています。

実際に改まるのは十年先

ところが、方向を出すのは年内でも、実施はいつになるかというところ――

「教育内容を改定するに当りましては、少くとも十年がかりの期間をかけていまままで改定してきたわけです」『そのくらいの長い時間をかけて』『慎重にやって来ているといういわば教育の持つ特殊性というのが今日あるわけでございます。だからすぐに改めることができません』『わが国の特殊な事情を御了解いただければ、そのこと自体が条約に対する抵触であると言って国際的に非難を受けることはなからう』(以上一月二十五日初

等局長)「教育の課程内容は大変慎重の上にも慎重を期して改定をしていかなければならぬ」(一月二十五日文相)「具体的に改正されるのは、次の教育課程全体が改定される際に具体的内容として出てくるというようなスケジュールで考えるわけでございます」『この論議が起きた段階で到底六十年程度までに間に合わないということとはわかり切っていたことでございます』(三月二十四日初等局長)「批准前に具体的な実態ができ上がっているということは非常に難かしいと思いますので、せめてそういう方向づけをしておきたいというふうに思っております」(四月十一日文相)

大体十年は現状のままに置いて置こうという方針のようです。「条約批准のために見直す」と言いながら、「すべての適当な方法により、かつ、遅滞なく、婦人に対する差別を撤廃する政策を追求する」という条約の第2条は完全に無視しているようです。文部省は外務省から言われてしかたなく見直しをするだけで差別をなくそう、男女平等をすすめるという積極的な姿勢はないわけです。

家庭科はどのように重要

江田議員の「これからの時代は、身辺自立の学問としての家庭科は男女ともきちんと学び、男性も生活感覚を身につけなければいけ

ないと思うが」という追求に対する文相の答弁には男女の役割についてのホネネがちらついています。男子の履修者がふえつつあると説明したあと、「いささか男性の女性化という傾向もあるわけですが、一緒に理解をしておるような気がいたします。これから家庭科全体をなくするとか、家庭科が必要でないということではなくて、むしろより重要なものであるというように、全体の教養を高めるといふ意味では大変大事なことだと思いますし、恐らくこれを教科の中に入れてありますのも、やはり女性がこういう仕事をすること、あるいはお母さんがこういう仕事をされることに對して、子供として、男性として、むしろ女性をいたわり尊敬する、差別ではなくてむしろ女性を大事にするという気持ちからこうした共学共修の問題が出てきておるのだから、こう思っております」。

それでもとにかく「家庭科は重要だ」と言ったことを結構だというべきでしょうか。

そして文相は、家庭科で世の中の仕組みや環境問題を教え、性教育を行うこともよいことと認め、最後に「男女がお互いに理解し、尊敬し合っていくことが家庭科教育の原点」と言っています。

文教委員会への働きかけ

文教委員長訪問

馬場 洋子

家庭科の男女必修を要望するため、三月二
八日、みぞれ降る朝、衆議院議員会館に文教
委員長の愛野興一郎氏を、会の石川、梶谷、
和田、馬場が訪ねた。その日、朝日新聞朝刊
で、「家庭科」女子必修見直し」の記事が報
じられるというグッドタイミング。

佐賀県出身、柔道が趣味という氏の部屋の
壁には、左に、葉隠の色紙が、右に田中角
栄の写真が飾られていた。

文部省畑ではなく、文教委員長になってか
ら一日と五〇分だけという愛野氏は「教育に
おける男女平等には賛成」「正直に言えば、家
庭のこと、子供の教育のことは家内任せであ
った。大学にきて、ようやく子供と話をする
ようになった」―お父さんにも家庭にかかわ
ってもらいたいですネー「そう思います」―
男女の必修が必要で、それがなければ、学
場がなくなります」「同感です」

たった10分間の話し合いだったが、あらか

ここでも「家庭科」 との出会い

岡山で――

樋口 恵子

時は四月九日早朝、場所は岡山駅前。この
日岡山市地婦連の大会で午前中話をする予定
の私は、前夜遅くホテルに到着、春眠曉を覚
えずを地でいつて眠りこけておりました。そ
こへ何やら駅のほうから演説らしき声が流れ
て来て、眠りを中断されてしまったのです。

「うるさいな」と思いつつきくと、声の主
は衆議院議員江田五月さんとそのスタッフで、
毎週月曜の朝、駅前で出勤する人々を相手に
辻説法を決めているらしいんです。

「……ことは国連婦人の一〇年最終年の一
年前で、差別撤廃条約批准に向けて……」

やや？話の風向きがこちらへ向いてきまし
た。江田さん要領よく条約の中味と日本の現
行法律制度がいかに矛盾するかを説明し、と
くに学校教育における家庭科の現状を性別役
割分業の否定とからめて、男女必修の必要を
熱をこめて語りかけていました。もう眠気な
んですっかり吹き飛んで、窓から拍手と声援
を送った次第です。

じめ資料をファイルしていたり、資料として
渡した黄パンフに早速目を通し、ファイルに
おさめたことなど、一貫してにこやかな応待
も、あながち体面上とばかりとは受けとれな
かった。委員長にとって最初の陳情?! きつ
と印象に残ったネ。一同の感想です。

江田さん奮戦、文部省もたつく

半田たつ子

社民連の江田五月氏が衆議院文教委員会
家庭科共修問題を質問されるとのこと、ま
ず梶谷さんがブレインの湯川さんに会いまし
た。その直後、江田さんを訪ねたところ、ま
こと明快に理解されているのに驚きました。
文教委は五日延び四月十一日になりました。

その前日、文部省係官を呼び、質問の要旨
を伝えると、石川・大森・和田・半
田が同席。職業教育課長補佐は、一月三十一
日訪問の際と同じ言葉をくり返すのですが、
江田さんは五日のうちに選挙区岡山に帰り、
家庭科教師と会い、教科書もとよりせ勉強し
堂々たる家庭科論まで展開されました。

一月二十五日の参院決算委で、久保田真苗
氏の質問に、高石初中局長が「条約がらみで
問題になる前は、家庭科についての論議を一
度も受けたことがない」と答えた不見識・無

日教組でも署名運動

日教組では、三月、各学校分会に次のよう
な署名活動を下ろしてきたということです。
学年末のあわただしい時期で、あまり徹底し
ていない様子ですが、多少の表現の違いは問
わず、大きな国民運動に盛り上げなければな
らないと思います。(半田たつ子)

家庭科の男女共学の実現を求める

要 請 書

私どもは、長年、家庭科の男女共学を提唱
してきました。

それは、ひとりの生活者として自立して生
きていくうえで、欠かすことのできない家庭
生活に関する基礎的な知識・教養を、男女共
に身につけなければならないと考えたからで
す。しかし現行家庭科は、小学校においては
男女共学ですが、中学校では一領域のみ相互
のり入れとはなりましたが、男生徒は「技術」、
女生徒は「家庭」と別々であり、高校では女
子のみ必修となっています。

今回、明年に迫る「婦人に対するあらゆる
形態の差別を撤廃する条約」の批准を前に、

知を私がつくと、文教委の大臣答弁には「今
までもそのような意見をきいています」と
あり、おもしろかったです。

初めての傍聴

半田めぐみ

初めて「日本」の組織を動かす人達を見て
きました。でも、傍聴席に着くまでに受けた
厳密な身体検査(その上、スカーフ・ブロー
チ着用禁止、ハンカチ・ティッシュ以外所
持禁止)の後に見たものに、私は期待とは裏
腹の不快感を持たされました。

私は、小学校時代ずっと、「友達が発言し
ている時は、静かに聞いて、その後で、意見
のある人は手を上げて、発言しましょうね。」
と教えられていました。でも、あの席に自由
に座れる人達は、発言を聞かないだけでなく、
冷かしの笑いやヒソヒソ声で妨害しているの
です。政党が違おうと友ではないのでしょうか。
私達は、仲の良い友達でなくても、学校が違
っても、「発言の邪魔」をしようと、しかられ
たのですが……。文教委員会に出席していた
人達を見ていると、私の受けた教育は何だっ
たのかと思ってしまう。あ、それとも
偉い人は何をしても許されるのですか？ そ
れなら私、偉い人になりたいくないですね。

貴省におかれては、高校における女子のみ必
修の家庭科を「男女共学」にするための指導
資料を作成中とのことですが、私どもは、そ
のことを喜び、同時にあらためて次のことを
ここに要望するものです。

記

1. 家庭科の男女共学をすすめるにあたって
は、男女平等の教育をすすめるという観点
から、従来の「家庭科」の概念にとらわれ
ることなく、男女共にひとりの生活者とし
て自立した生き方ができるように、また家
庭責任を共に負うことのできる主権者とな
るのに必要な教育内容をもりこむこと。
 2. 小中高通しての共学であり、一方的な選
択制の導入には反対である。
- その際、他教科との関連も考慮されるべ
きこと。

一九八四年 三月

日本教職員組合

文部大臣 森 喜朗 殿

皆さんの地域では運動は広がっていま
すか？ おしらせください。(編集部)

「教育改革」の動き批判

— 私たちの運動こそ
教育改革の目玉 —

半田たつ子

まあまあ、たいそう教育づいちゃった中曾根さん。「戦後総決算」を気負い、「文化と教育に関する懇談会」「臨時教育審議会」と、お忙しいこと。国民が「なんとかしてほしい」と思っている教育問題を「改革」すれば、人気は集まり、政局乗り切りを果たせるとヨンでいるのではないの。

文教懇は、首相の私的諮問機関で、その結論が政策に直接結びつくことはない、と見られていた。文部省では第十四期中教審を発足させるべく準備をしていたのに、首相は一月二十七日「中教審とは別の機関を作る」と言い出し、教育臨調（後に臨時教育審議会と改称）が具体的に動き出した。

中教審は棚上げ、昨年六月発足したばかりの文教懇は、急ぎ報告書をまとめさせられ、その報告書が臨教審の「重要参考資料」になるといふ。首相は、文部省や中教審に対し、

「占領軍によって指導された外来種教育理念や制度の上を走りながら、小刻みの改善を行っているに過ぎない」と評するが、その首相主導による「教育改革」は、まことに危ういと言わざるを得ない。

さて、その文教懇報告書には「教育基本法や教育に関する特定の見解にとらわれずに：我々の意見を整理した」とあり、戦後教育の「弱点」を指摘するなど、首相の持論に近いものである。幼児期のしつけや家庭教育を重視するというが、男女平等をすすめる教育については全く触れていない。

「会」では、新教育制度の検討にあたっては、家庭科の男女共修についても考えてほしいとの要望書をすでに送っていたが、文教懇の報告を見て、再び要望書を送った。その要点は、
1. 生活についての教育を重要視し、学校教育の中にはつきり位置づけること。
2. 男女平等をすすめるための教育を重要視すること。

3. 学校教育の多様化は、社会的条件を改める努力を十分にした上で、慎重にすすめること。

そして、教育改革にあたっては、生徒・父母・現場教師や最近の学校教育を受けた若い人びと、それに国民の半数を占める女性の意

見を特に尊重すること、である。

臨教審については、日教組も臨時大会で、「臨教審設置法案の成立を阻止する」闘争方針を決め、他方「臨教審不参加」の修正案を否決するなど、苦しい対応ぶりだ。その一方、四月七日には「いま、日本の教育をどう改めるか」と題する、日教組版教育改革試案をまとめた。教育改革も必要だが、タイムリミットの迫っている差別撤廃条約批准のための条件整備—最も立ち遅れている家庭科問題—をとりこばされないよう、しっかり監視し、要望し、共に運動をすすめたいと願う。

政府は、臨教審を五月には発足させる予定だったが、メドが立たず、七月一日スタートをめざして準備を進めることになった。秋の自民党総裁選に向けて、できるだけ早く実績を上げたい首相に対し、文部省は早期発足に強く反対したという。臨教審の設置期間は三年、その間第十四期中教審は凍結。中教審答申—教課審発足—教育課程改訂という従来のコースはどうなる？ 条約批准の妨げにならぬ方向は出しても、教育課程が新しくなるのはまだ先だ。男女が家庭科を共に楽しく学ぶ姿を実現するまで、私たちの運動は続く。その姿こそが、教育改革の目玉となるように。

「We, 84春の公開ゼミナール

「管理教育を超えるには—

21世紀の男と女の生き方

ちよっと考えてみませんか」

蔡 和美

3月31日、婦連会館において、ウイ書房・Weの会共催による標記ゼミナールがもたれ、遠くは兵庫・岩手などから、男性22人を含む120人が集まりました。初めに、長谷川孝さんから、管理教育は今や企業側としても困るもので、それを超えることを考えている。私達の側は、管理を超えるのではなく、教育の管理性を超えられるのかということが課題になっているという問題提起を受けて、中嶋里美さんが、男女の性別役割分業を問い直し、新しい男と女の関係をどう築いてゆかという観点で、男女共修の実験授業を行いました。生徒になった人たちから、各々の体験や役割分業を考えてゆく上での考え、自分らしく生きることなどについての意見が出され、その後参加者による熱心な討論が交わされました。Weでは、昨年来、ゼミナール・フォーラム等で、学校・教育の問題について考え、話し合ってきましたが、「管理教育を超えるに

は」という大テーマに、さらに様々な観点から迫まり、討論を深めてゆきたいと考えています。（詳しくは、We, 84・6・7月号参照）

・84夏フォーラムは8月6・8日開催

国際放送で

共修の必要性訴える

中嶋 里美

三月七日NHKの国際局からの取材で家庭科の共修について英語で話をした。この企画は日本の女子たちの現状とそれに対する運動を紹介するものであり、教育、労働、福祉などがふくまれていた。

私がインタビューされた内容は「差別撤廃条約を批准するためには家庭科はどうしたらよいのか、文部省の考えについてどう思うか」というものであった。

文部省が考えている選択制の家庭科では日本の根強い男女差別を変えていくことが出来ないこと、夫と妻の家事分担の大変な差、男たちは生活的自立を欠き、女たちは経済的自立を欠いている現状を話し、それぞれが自立出来ない仕組みについても述べた。

放送はオーストラリア、アメリカ等へ向けられたものであった。放送時間は二分。

読売「論点」に投稿

芦 谷 薫

3月末の参院予算委員会で、文部省は「女子のみ必修のみなおし」方針を明らかにした。数社の新聞記事にかなりの大ききでこのことは報じられ、御存知のことと思う。しかし共修問題を充分理解していない男性記者によって書かれた記事は、今ひとつこの問題の本質にせまり切れていない。この報道に不満をもった女性記者から、現場の教師の意見を是非紙上にということで投稿した。4月7日付け朝刊に掲載。

内容は、①共修問題の本質的な議論を多くの人にしたい②現場で教える中で、家庭科は共修でこそ意義が大きいという思いが強まるのは何故か③共修実施校の生徒や卒業生の評判がよいことや、現場での努力を卒直に認めたいの三点です。

皆さんも是非新聞等に投稿して下さい。市民の声、教師の声を。選択ではなく共修の家庭科をという声を。

世話人会報告

△三月十日▽

- ◆会費三五〇〇円に値上げ決定する。
- ◆「一問一答」(黄パンフ)の千冊増刷。
- ◆国際シンポジウムESCAPのお手伝い。
- ◆世話人には、継続を請う。
- ◆会報月号について。高等学校の家庭科共修の状況を掲載して増ページ。
- ◆新世話人、大嶋せいさん(男性)
- ◆一九八四年度運動方針案の検討
- ◆'83の方針ととくに変わるところは、「会員名簿」の項、削除。「署名活動を行い、広く世論に訴え」と共に文部省に男女共修を要請する」を加える。
- ◆一九八三年活動報告確認。
- ◆入会勧誘のアピール文の検討。
- ◆総会のときに、内容検討を行わなければならないので、「魅力ある家庭一般を作ろう会」のメンバーにも参加をよびかける。

(青山 和世)

△三月二十三日▽

- ★総会について
- ◆'83年度総括案、'84年度運動方針案、'83年度決算案、'84年度予算案を検討。

総会の役割分担を決定。

- ★「国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会」の報告が和田さんから。

ESCAP政府間会議と民間婦人団体の交流について

- ★「文化と教育に関する懇談会」の提言に対し、中曽根首相あてに申し入れをすること
- を決定。

★アジア太平洋地域国際シンポジウム(総理府主催)に出席しての報告が中嶋さんから。

(馬場 洋子)

△四月七日▽

総会での討議を受けて、殆んど時間を六月十六日の集会和、男性向リーフレットの検討にあてました。

- ほかに決定したことは、
- ・文部省高石初中局長へ抗議文を送ること
- ・中曽根首相への二度目の要望書の内容
- ・衆議院文教委員会を傍聴すること、など。

(梶谷 典子)

△四月三十日▽

- 国会、ESCAP関係の会、48団体の活動などについて報告し合ったあと、高校長協会家庭部会の動きが話題になりました。「男子履修に反対ではないが、家庭部会以外の校長は男女必修は認めないだろう。だから一挙に共修はむり」と考え、「家庭科は人間教育、

母性教育として重要。今までの家庭科は社会の状況に合ったもの、それを更に発展させることが必要」という要望書を出したもよう。

●決めたこと

- ◆六月十六日の集会の内容、担当等。
- ◆世話人全国交流会の担当。
- ◆男性向リーフレットの内容、体裁等。
- ◆文部大臣、国連婦人の10年推進議員連盟会長に面会を申し入れること。
- ◆秋号の前に臨時の会報を出すことを考える。
- ◆文部省でつくる家庭科検討のための新しい機関のメンバーは半数以上女性、48団体から複数入れるよう要望書を出す。
- ◆資料を積極的に送る。各県高教組婦人部、東京都婦人情報センターへ情報を送って来ている自治体の婦人問題担当窓口、臨時教育審議会、新しい家庭科の検討機関など。各地の家庭科の研究会でもリーフレットなど配る。
- ◆家庭科の内容の第二次試案は夏休み中にとめ、新しい家庭科の検討機関にも送る。
- ◆共同で署名運動をやりたいという家教連の申し入れを了承。
- ◆新パンフの体裁、定価等。
- ◆市川房枝記念会から団体一口一百万円の維持費の要請があったので、一口とする。

(梶谷 典子)

国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会報告

和田 典子

ESCAP政府間会議と民間婦人団体との交流

3月末のエスカップ地域政府間会議参加のNGO(各国および国際組織)と連絡会との交流会は、3月27・28日の2日間行なわれましたが、参加者は100名・80名と成功でした。両日とも、過密なスケジュールの合間をぬって、ランチタイムをあてた短い時間でしたが、一九八五年世界会議にむけて卒直な意見の交換を行うことができました。(15頁参照)次の29日は、日本文化の夕べ、と名づけ、会議参加の代表団と関係者を招いて、連絡会

企画推進会議も首相に要望

藤田たきさんを座長とする婦人問題企画推進会議は、一月三十日、中曽根首相あてに差別撤廃条約の早期批准についての要望

主催のレセプションが持たれました。

会場は、東京Y.W.C.A. 山口信子さんの司会で午後6時〜8時、約二五〇名が参加してなごやかにすめられました。

ロビーには日本人形が展示されたほか、各団体によるバザールも開かれ喜ばれました。「会」からは、石川由紀、和田典子が出席し、ナイロビでの再会を約して散会しました。

尚、集会のための財源は48団体の分担金と会費など計一五〇万円でもかなわれました。

「男女雇用平等法案」作成についての申し入れ

'84・3・26婦人少年問題審議会より労相に提出された「建議」についての解説を受けるため、連絡会は4月7日全体会を開きました。あいにく総会とぶつかりましたが「会」からは担当の和田が出席。労働省婦人少年労働課長・佐藤ギン子氏より説明を受けました。

書を提出、「教育課程における男女同一の取扱いの確保」に関して「条約の精神に則した整備を早急に」行うように要望しました。

(梶谷 典子)

内容は、既報の「経過報告」から一步の前進もなく、連絡会としては意見をまとめて、法案作成についての申し入れを行うことをきめました。

「申し入れ」では「建議」は・女子労働者の現状に対する配慮に欠け・平等と女子保護とのバランスでまとめられている点が問題、実効性ある雇用平等法作成のために

1. 婦人に対するすべての差別を禁止し、雇用における男女平等実現を有効なものとするため、制裁を含む強行規定とすること。
2. 差別からの救済がすみやかに行なわれるような独立の権限をもつ救済機関を設けること。

3. 先進工業国の中では、日本の労働時間はきわめて長く、時間外労働、休日労働の規制の見直しは、労働時間の短縮、週休二日制有給休暇の拡大や保育施設の充実など女子の家庭責任を軽減する諸方策を進めた上で行うこと。

尚、申し入れ書を4月13日、赤松婦人局長に手交した際局長は「実現可能な法律を作るか、理想とちがうのでいらないのか——半永久的にできなくなる」と述べました。その後発表された政府案要綱についての説明をきく会は、4月27日午後行われました。

ESCAP 婦人会議から

会議で決ったこと

梶谷 典子

来年は国連婦人の十年をしめくくる世界会議が開かれますが、その準備のためのアジア太平洋地域の政府間会議が三月二十六日から三十日まで開かれました。(主催はアジア太平洋経済社会委員会 ESCAP)

婦人の十年が始まって以来、「平等、発展、平和」はどのようにすすめられているか、各国政府、各国国際団体から報告があったあと、三十八の勧告が採択されました。

家庭科教育に直接関係するようなものはありませんが、「差別的信条の除去に役立つような両親の教育」が必要だという勧告がありました。

日本は熱心なことに七つの勧告案を出しています。「差別撤廃条約は ESCAP 地域のすべての政府により批准されることが重要」「行動計画は二〇〇〇年まで延長されるべし。評価は国連の全加盟国の出席をもって一九八

五年以降定期的に行われるべし」など、結構な提案ですが……自分の国で平等がなかなかすすまないからこんなことを言うのでしょうか……？

それにしても、この会議のことは新聞には殆んど載りませんでした。「日本で開かれた初の大規模な婦人問題の国際会議」と書いた新聞もありましたが、その記事も一段。同じ時、雇用平等法が大きな話題になっていたが、本来それと大きな関係があるこの会議がこんなに小さく扱われるとは——。日本のマスコミ、もう少し何とかしなければ！

会議を傍聴して

伊藤 恭子

二十八日、会で傍聴席が確保してある、との事で、急拠出席した。経団連会館十二階のこの席はガラガラ。十一階の会議場も空席が目立つ。

各国の報告が続く、NGOの報告に入る。それらの中で印象に残ったのはAIBO(アジア太平洋放送開発)の代表から「女性の地位向上に役立たせる番組づくりのため多くの女性のための研修の必要性」を説いたくらいである。

アジア太平洋地域

国際シンポジウム

中嶋 里美

三月二十二日、総理府企画推進本部主催の「アジア太平洋地域国際シンポジウム」が平河町の都市センターホールで開かれた。全国津々浦々から約二〇〇〇名の人が参加したが残念ながら焦点のぼけた会になってしまった。パネリスト五人のうち縫田嘩子さんを除い

ては全く男女平等の実現に情熱を注いでいる人とは思われなかった。事実私はパネリストの経歴や著書について調べてみたが、彼等にはアジア地域との関わりはあるが、男女平等とは関係のない人ばかりだった。

企画推進本部は、この日のために一般から「アジアに於ける日本人の役割」というテーマで原稿を募集したが、今回のシンポは来年の世界婦人会議にむけての地域会議に因んで開かれたのであるから、もっともっと婦人問題にしろべきであったのだ。意見発表に選ばれた人も、「タイで農業を教えてみて」とか、「アジアの人を自宅に招いて共にお正月を過してみても」等もあり、こうしたものもひとつと別の会議でやるべきだと思った。勿論沖縄の高里鈴代さんのように、コザの基地の飲食街で働くフィリピン女性とつき合い彼女等のおかれている状況をつぶさに発表してくれ感銘を与えてくれた意見発表もあったが。

午前の意見発表のあとお昼の時間に「日本の女性達は今」という映画が上映され、多分アジアの人達への日本紹介と思われたが、賃金の男女差も、仕事内容の男女差も、家庭科の男女別学習も、進路における男女の問題もパートの賃金の安さについても一切ふれてないものだった。

NGO交流会に参加して

石川 由紀

私自身も家庭科をアジア諸国の人達はどうのように学んでいるか、教育の中で自立した男女をどう育てているのか質問すべき立場にいたのだが、ぶつける相手がいなかったこととあまりにも最初から失望してしまっていて発言の意気を失っていた。

三月二十七日・二十八日の両日に開かれたNGOの交流会は、十二時半から二時迄という昼食会でサンドイッチと紅茶・コーヒーマという簡素なもの。しかし集まった人々の熱気というか雰囲気は華やかさ何といった方がいいのだろう。会場が英語であることと民族衣装の人が目につく以外は、国際会議だという私の持っていた固さはどこかへ行ってしまう、なんというなごやかさだろう。身動きのできない程の混雑と限られた時間の中、自国のかかえる沢山な婦人問題を一点に絞って次から次へと問題提起がなされた。核実験の見返りとしての地域開発資金と自然そして生活経済の基盤、買春と農村と出かせぎ、家族計画と婦人の教育・就業等々。午後の本会

私は幸い、デンマークの国連会議にも参加するチャンスを得たがそれと比較すれば、いまひとつ盛りあがり欠ける。むろん、中間会議と地域会議では規模は異なるであろう。

しかし、NGOメンバーとの交流会では、売春、教育、核など、具体的な問題提起がなされ、来年のケニアでの世界会議に向けて実りあるものにしようと確認しあえたことは収穫だった。

日本において現在、ややもすれば、これら男女平等へ向けての動きがしりすばみの傾向があるとするならゆゆしい問題である。国連婦人の十年も残すところあと一年ではまだまだ積み残しかねない問題が山積していることを忘れてはならない。

議開始を一時間も繰下げての大交流会となった。国名なんか知らない、我国も例外ではなく共通の問題であると思った。その中でナイロビ会議の事務局長に就任したフィリピンのシャハニ氏の言葉(正確ではないが)「このようにいろいろな国の人達が集って話し合うことも大切だが、ナイロビに沢山の人が集うよりもっと大切なことは、それぞれの所属しているところで最善の努力をすることだ」が私にとっては思いあたることもあって印象に残った。翌二十八日は国連NGO本部のハザード氏を中心にすすめられた。メンバーの一部が首相官邸の昼食会に出席ということもあって人数は減ったものの引き続き問題が提起された。討議するには時間が少なすぎやはり交流のみに終った。

二十九日の「日本文化と交流の夕べ」は大変な賑やかさでESCAP会議参加のすべての代表と婦人年連絡会の各団体からの出席者で、日本の家庭料理をしのばせるテーブルをめぐる立食パーティ。ひびく太鼓や日舞の合間に数人づつの歓談が見られ、外国語恐怖症の私でさえ声をかけて廻る程の宵であった。輪になって踊った東京音頭、婦人問題を背負わないで、男女で踊れる日が来ますように。

エスカップ 民間フォーラムで

—家庭科の男女共修
に活発な発言—

駒野 陽子

国連の公式会議には民間の女性たちの声はなかなか反映されない。そこで「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」「あごら」「アジアの女たちの会」など七つの団体が呼びかけて、来日、在日のエスカップ地域の女性たちと日本の女性たちが、ホンネで話し合う場、民間フォーラム「女から女へ」を開催した。政府間会議と同じ26日から30日まで、連日、「売買春問題」「アジアと日本のかかわり」「アジアの映画・スライド上映」「教育問題」「労働問題」の五つの分科会がもたれた。(真正会館・婦選会館)

政府間会議に参加した代表、NGOの代表や、エスカップ地域からの留学生、在日のアメリカ、ヨーロッパの女性たちも参加して、毎夜熱気あふれる討論が繰り広げられた。

売買春を考える分科会で、フィリピンのNGO代表ラウデニコ女史が、フィリピンの買春観光案内ともいふべき日本のポルノ雑

誌、「天国漂流」に対する烈しい告発をきいて、翌日、日本の女性たち二〇名あまりが、フィリピン女性といっしょにその出版社へ抗議に押しかける、という行動も行われた。女の願い、女の怒りに国境はない、という思いとともに、日本の男性のアジア女性に対する破廉恥さに恥しさいっぱいだっただ。

4日目の教育問題の分科会では、教育が普及し、文盲の人はほとんどいない日本で、教育がかえって国の支配の道具となり、性別役割を強化したり、アジアへの日本侵略をおおいかくす手段とされたりしていることが問題になった。戦前の軍国主義下の女子教育、戦後の家庭科教育の変遷、教科書問題などについて仲野暢子さん。「家庭科教育」に対する文部省の態度や、女子のみ必修教育課程の批判、そして家庭科の男女共修の運動や実践について芦谷薫さん。最後に学校の中のさまざまな性差別について坂本なえさんがそれぞれに問題提起を行った。

タイの留学生パウリーナさんは、タイでも高等教育を受けた女性が出産で家庭にはいつたり、就職の時、男性より就業分野が限られて、女性の多くは教職につく、など、日本との共通点もあるが、高等教育を受ける人がまだ少いだけに、大学卒の女性に職がない、な

どは考えられない、と日本の現状への批判も含めて発言があった。

会場からは、日教組の委員の方から、「家庭科の男女共修にはまず内容の充実を」という提起があり、芦谷さんが「共修を行っている学校では内容も男女の自立をめざして編成され成果をあげている。ぜひ現場を見てほしい。差別撤廃条約批准をてこにして、共修へ向けて教育課程を変える運動こそ緊急である」と強く主張した。

最終日の全体会(YWCAホール)では、売買春、日本のアジアへの経済侵略と環境問題、雇用平等法、反核・平和など、エスカップ地域の女性をとりまくすべての問題に対して20余りのグループが、それぞれの活動の発表をして、交流を深めた。私たちの会も、梶谷典子さんが「文部省は、家庭科の女子のみ必修見直しをやっ」と言い出したが、差別撤廃条約批准のための形式的なものでなく、完全な男女共修をめざして、文部省、国会、その他関係方面へ強力に働きかけよう」とアピール。署名活動への協力も訴えた。

最後に参加者全員が手をつなぎ合い、歌声の中に「女たちの手で平和を」と連帯の誓いを固め、四時間にわたる全体会を締めくくった。

東京都婦人問題 国際シンポジウムから

—非行は働く母親の
せいではない—

樋口 恵子

二月七日、東京都が開催した東京都婦人問題国際シンポジウム。エスカップの会議に向けて開かれたもので、アジア太平洋地域の女性による、東京都としては初めての海外女性との交流の会議でした。

出席者は、マレーシアの駐日大使夫人のジャマルディンさん、タイ国からアジア経済研究所へ出向中のタマサート大学準教授のリリー・コシャーンソンさん、オーストラリア大使館のアリスン・フロノフスキー一等書記官、司会者として日本から私が参加しました。いわゆるエリート的女性たちの発言でしたが、アジアの女性問題については情報不足なので一つ一つ新鮮にきくことができました。マレーシア大使夫人からは、売買春問題に関連して「日本の奥さま方、ご主人が東南アジアへ赴任するとき、単身赴任させないで必ずごいっしょにいらして下さい」という日本人には耳

の痛い発言がありました。

いちばん興味深かったのは、休憩時間中に出席者からメモで集めた質問に対するパネラーとの応答。同時通訳付き会場(経団連ホール)を埋めた五百人の参加者は、東京都と連絡のある婦人団体の会員たちが中心で、外国人は大使館関係者、約百人の一般公募者など。まずは中年の日本女性を中心をなす会合でした。そこでさまざまな質問が出ましたが、最も質問が多かったのが「女性が社会参加するのは結構ですが、青少年の非行問題につながるのではないのでしょうか」。

日本女性の間でくり返される質問で、働く日本女性たちが一瞬ひるんだり、うんざりする質問です。しかし、アジア・太平洋の三女性の答えは、ひどくあっさりというか、はっきりしたものでした。

マレーシア大使夫人は「いちばん日本の家庭婦人に近い感じでしたが、
「そういう非難に屈して仕事をやめる人もおられます。ですがそれは残念なことだと思いません」。

タイのコシャーンソンさん。

「私は独身で子どもがいらないからわからない面もありますが、現在は子どもを育てにくい時代で、子どもがなくてはほんとによかったと

思います。かつては子どもが一人でも、悪にさそうような危険は少なかったけれど、今はテレビやら射幸心をそそるものや、こういう環境の悪化を考慮せず、母親だけ責めても始まらないではありませんか」。

いちばん痛烈だったのが、二児を連れて日本に赴任しているオーストラリアの母親外交官。

「その質問の前提には二つの誤りがあります。まず第一に、育児の責任は母親のみにあり、とする考え方です。子どもを育てるのは、父親と母親の共同責任なのですから、母親の責任を問うのなら、父親のあり方も考え直さねばならないはず。第二は、働く母親は子どもの責任を持たない、という考え方です。働いていようというまいと、子どもへの責任は父にも母にもあります。……要するにそういう質問はくだらないと思います」。

明快な答えに会場の一角から拍手がまきおこり、中立なるべき司会者の私も思わずにんまり、でした。それにしても、青少年の非行問題が、つねに他のことはすっ飛ばして、母親の就労や社会参加との因果関係だけで語られる現状に、早く終止符を打ちたいものです。

東京での活動

都立戸山高校 斉藤 弘子

東京では、現在、都立高校全日制の十一校で男女共学の「家庭一般」が行われています。十一校の大半が、農、商、芸術などの職業課程です。また、全日制普通科においては、三年時での選択科目に共学の「食物」など家庭科目が多く、学校におかれています。

このことは、都家庭科研究会のある支部が昨年行った共学実態と、家庭科教師の認識調査の結果、八割が条件さえ整えば男女共学に賛成にもつながります。

そこでこの条件としてあげられた、男女共学の学習内容、一校への家庭科教師の複数配置などの教育条件の整備、他教科教師、父母などへの働きかけを検討しようということになりました。春休みに入った三月二五日、教

研活動や、高校家庭科教師のサークル「魅力ある「家庭一般」を築く会」で活動している十数人が集まりました。

折りしも、国会の予算委員会で家庭科の問題がとりあげられた時期であっただけに、具体的に次のようなとりくみが決まりました。

- ① 家庭科教師の学校に於ける教科での実稼動時間調査を三カ月、半年など長期間行う。これにより家庭科教師が授業時間以外に準備、後片づけ、評価などにどれだけ時間をかけているかを明らかにし、複数配置の足がかりとする。
- ② 共学実践校の教育課程、学習内容、生徒の反応などを収集しパンフにする。パンフは家庭科教師以外にも各学校の教務部などにも配布する。
- ③ 官製研究会や組合特に婦人部にも積極的に働きかけ、共学家庭科に対して広くアピールし、賛同を広めていく。

「存じますか？」
「東京の婦人問題事情」
東京都は、このほど「東京の婦人問題事情」と題する約60頁の小冊子を出版。日本語版と英語版（内容は全く同じ）で、英語版は「ストライド・バイ・ストライド」というタイトル。グラフ、数字、イラスト、

写真入りで、内容もわりと前向き。教育については、性別役割教育が進路、教科書、家庭科教育などで行われている現状をきちんと書き、見直し、改善を示唆している。エスカップの婦人会議や来年の国際婦人年世界会議を意識しての出版だろう。私達の運動にもうまく活用したい。（駒野陽子）

労働省婦人問題懇談会 に出席して

石川 由紀

今年の婦人週間のスローガンは「あらゆる分野への男女の共同参加——平等・発展・平和をめざす国連婦人の十年最終年に向けて、残された課題の達成をめざしましょう」である。

この会の前半は労働省から(イ)あいさつ(ロ)勤労者家庭の妻の意識に関するアンケート調査の結果についての報告(ハ)男女雇用平等法の建議についての報告、後半は懇談という形であった。

(ロ)の報告は意識というよりも主として家庭内に於ける妻の役割に関する実態調査のようなもので、家事育児の担い手が誰かということ、夫の家庭参加に関するものが中心であった。この調査に関して当会としては、婦人の就業及び家庭機能に対する不安や障害は男性の家事能力の低さや意識に依るところが大であるとし、アンケートの際には役割分業意識の再生産を考慮して次代への要望に関する項、教育に関する項も入れて欲しい旨を提言した。平等法については新聞その他報道以上のものが聞かれなかったのが残念だった。

丁 君 へ

大嶋 せい

Dear T.
全くもって、お互い音信不通が続いているけど、君のことです。元気でやっていることでしょうか。

こちらは、この間電気工事士の資格を取り、かけ出しの電工をやっています。
ところで、私が家庭科の教師になりたがっているというのは前に話しましたね。

君とよく、シューマッハーやもう一つの技術について、それから技術論について、よく議論したものでしたね。こちらは未だ書生っぱさがなくならないのだけど、多分君もそうでしょう。そのとき私の結論は、いつも現在の工業文明のかかえている問題は、生活の論理を切り捨ててきたことに起因する。というものでした。それで私が家庭科の教師になつて、生活と生産の接点を見つけてゆきたい、という、君に啓蒙主義的だと批判されて、あのかきは返す言葉がなかったのだけど、今思うに、生活者の視点をあくまで保ち、それ

に、自分の表現として、いわば、エンターテインメントとしての授業を作っていけば、蒙を啓くといったものでないのができるのでは、と思うのだけれど……甘いかな。

さて、あの頃は、教師になりたいとは思っていても、今から大学に通うなんて出来ないし、半ば夢物語だったのだけど、去年「新しい家庭科We」誌に、「いつでも、どこでも、だれでも学べる」という日本女子大通信教育の広告を見つけ、早速募集要項を取り寄せ、嬉嬉としながら出願の準備をしていました。'83年度の募集は終わっていたので、'84年版の要項を見ると、正科生の入学資格に、女子に限るというのが書かれていたのです。

それで手紙で問い合わせたり、入学相談会に出掛けていったりして聞いた所によると、今のところ、教材や、教える側に、男の学生を受け入れる準備が出来ていないので、男性には入学許可がおりないということで、特に今年から規則が変わったわけではない。とのことでした。

通信課程で家政学部があるのは、日本女子大だけなので、ここで断わられたら、今の私の状況では、事実上家庭科の教師になる道は塞がれてしまうわけです。今更ながら、性別によって、一方的に役割を押しつける社会と

いうものを実感しています。

只、この問題に関しては、情勢を樂觀視しています。一つには、日本女子大の通信教育が、過去に男子を受け入れた実績がある、ということ、49年の通信教育開講の頃は、多くの男子学生がいたと記録されています。第二に、他の教員免許を持っている男性が、家庭科の免許を取得するために、聴講生として、日本女子大の通信で学んでいて、北海道の教育委員会では、それを奨励しているとのこと。

あと忘れてはならないのは、この話をした多くの人達が、通信教育で男性も家政学を学べるようになることを支持してくれているということです。

といったわけで、今は、正科生ではなく、科目別履修生として、住居学の勉強を始めました。

生きていけば色々面白いことにつかるものだと思っている今日この頃です。

それじゃ、元気で。

Sei

※ ※ ※ ※ ※

二月十八日、芦谷薫、大嶋せい、中嶋里美の三世話人は日本女子大に行つて男性の入学を認めるよう要望しました。（編集部）

共修調査 高校編

—あなたの近くの
男女共修校です
でかけて見て下さい—

芦谷 薫

83年には、中学技術・家庭科の相互乗り入れ指導要領が実施されて一年経過後の、中学校における家庭領域の共修実施調査が当会よりなされ、その進み具合が確かめられ、一部乗り入れ制度では不充分であるという問題点も明らかになりました。

そこで83年度会運動方針として高校共修実施調査を行うことになり、11月頃から準備をはじめました。まず各地の世話人から協力してもらえらる方を募り同時に調査内容についても意見をいただき、12月に調査用紙を発送しました。年末年始の忙しい時期や学校の冬休み期間と重なったため、また、全県に世話人の方がいらっしやらないこと等で、9道都県の結果しか得られませんでした。

調査に御協力いただいた方々には本当にありがとうございます。また未調査の県でわかりましたら是非御一報くださいませ。

①……共修実現への要件

- ②……共修校生徒の反応・感想
- ③……共修未実現の理由

【北海道】

◎実施校

- △共修▽滝の上（2単位） 土別東
- 帯広商業 室蘭啓明 旭川（定）
- △「家庭一般」男子選択▽3校
- △他の選択科目を男子も▽3校

◎良好

- ③教育課程 教師集団の共通理解 家庭科教師の自信のなさ

【埼玉県】

◎実施校

- △共修▽鴻巣（2単位） 新座総合（食物領域のみ）
- △「家庭一般」「食物」男子選択▽5校

【東京都】

◎実施校

- △全日制▽大島 農林 代々木 農産
- 五日市 池袋商業 四ッ谷商業 赤羽商業

- 葛飾商 第二商 農業 芸術
- △定時制▽南 千歳丘 赤羽商 足立 江北
- 一ツ橋 第三商 深川 葛飾南 神代 武蔵
- 南多摩 都立大附 羽田 雪谷 目黒 園芸
- 代々木 市谷商 武蔵丘 北 豊島 向丘
- 文京 板橋商 日本橋 紅葉川 南葛飾
- 農産 大島

【静岡県】

◎実施校

- △「家庭一般」男子選択▽2校
- △選択科目で男子も▽5校
- ①授業編成上 時代の流れ 「男子も自立を」と考える教員の存在 家庭科教員から共修への訴えとそれを組合が支援したところ
- ②授業への取り組みも活発 成績も良い 「楽しい」「ためになった」「学んでよかった」という声が圧倒的
- ③他教科の無理解 受験体制 家庭科教員の意識の低さ

【長野県】

◎実施校

- △全日制▽須坂 上水内北部 犀峽 坂城

臼田 小諸商 小県東部 高遠 岡谷東 諏訪実業 赤穂 箕輪工業 飯田 長姫 梓川

①教文組織の全県的な取り組みとして、教育課程自主編成を各校の職場教研、職員会議で何度も原則的な討議を重ねた。すべての生徒に必要な「生活科学」的家庭科を入れることを教育課程編成の中心課題として、家庭科、他教科教師の協力により実現努力、県教組交渉で共学「家庭一般」の盛り込まれた教育課程表に対して「指導助言はするが拒否はしない」という確約をとる。若い家庭科教師を中心とする研究実践が着実にすすめられてい、又個々の家庭科教師の中にも家庭科教師のあべき姿への深い洞察と取り組むのあったこと。

②「民主的家庭経営をするために男子にも必要。楽しかった家庭科のことを話すとやらやましがられた」「やってほんとによかった、自炊にも大変役立っている」「一人で生活する自信がある。絶対つづけて欲しい」（須坂高卒業生の声）

- ③受験科目優先 時期尚早 内容への不安
- 女子教育としての社会通念

【兵庫県】

◎実施校

- △全日制▽尼崎北
- △定時制▽楠 稲岡
- △男子「家庭一般」選択▽2校
- △「生活科学」「保育」選択▽2校
- ②定時制では鮎屋や縫製工場に勤める男子がむしろリード
- ③県教委の姿勢——男子のみの「家庭一般」なら認める 中学での共学が一領域のみであること

【高知県】

- ◎かつて男子が選択科目をとっていたが「全く息抜き時間で他教科にも迷惑なので」止めた
- ①高校家庭科部会ではすでに確認済。県教委に働きかけ制度的確立をはかろうとしている。「各学校内での努力はめんどろでしたくない」というのが現状

【福岡県】

◎実施校

- △共修▽筑紫中央 伝習館 小倉南 若松
- 小倉西 鞍手 久留米豊
- △男子「食物」選択▽1校

- ①定時制では自活している生徒が多く校内で単位の奪い合いがないため家庭科の意志さえあれば実現
- ②定時制では必要性を男子も切実に感じている 授業中の質問も多い
- ③県教委、管理職の共修運動への警戒心強い。家庭科研究部会も無関心。校内で大多数の教員の意志統一があっても管理職の反対でつぶされる。

【熊本県】

◎実施校

- △共修▽松橋養護 水俣（普、商）
- 宇土三角分校 荒屋（定） 松島商
- 甲佐（普、商） 御船 熊本商 鹿本商工
- 人吉五木分校 人吉（定）
- △「家庭一般」男子選択▽2校
- △選択で男子▽10校
- ①組合青年部、職員会議で男子生徒の自立にむけての家庭科学習の必要性が討論され実現
- ②おもしろがるが深いところへもっていかうとするといやがる。男女和気あいあいとしている。
- ③「進学」が壁。内容は「共学」を前提として展開する学校が増えている。

「家庭科の男女共修 に関する要請」署名 八六六五人分集まる これからご協力を！

桑原 芳子

「家庭科の男女共修に関する要請」の署名活動は、昨年十二月の世話人会で発案され、一月に署名用紙印刷、そして二月より全国各地に配布されました。署名活動は、会員の所属する職場、また、いろいろな形でかわりあいのある各種集会、そして、地域、家庭の間で、すぐ様とり組まれた模様です。署名用紙は二月末より全国各地から続々と返送されていきます。また寄せられましたカンパの額は十四万二千七百九円となりました。

「家庭科の男女共修」にむけての各地方ですすめられています独自の活動が、中央に一つの大きな声・力となって結集しつつあります。六月に予定されています決起集会にむけて、さらに署名活動が展開されますようお願いいたします。

◇ お願い ◇

会費をお納め下さい

84年度の会費は年三五〇〇円と決まりました。同封の振替用紙でなるべく早くお納め下さい。83年度までの未納分のある方は大至急どうぞ。

入会勧誘用のちらしをどうぞ

新しいちらしができました。体裁は従来通り、アピール分が少し変わりました。教育や婦人問題、生活問題に関する集会などで積極的に配って下さいますように。「家庭科の男女共修に関する要請」署名を依頼するときにもご利用ください。必要な枚数を事務局に郵便でおしらせくださればお送りします。無料。

手紙を！ 投書を！

森文相は、母親からの個人的な手紙もよく読まれるということです。説得力ある共修の主張をぜひ書いてお送りいただきたいと思えます。

新聞や雑誌にもどんどん投書しましょう。

リーフもどうぞ

春号に同封したピンクのリーフレットもまだありますのでどうぞご利用ください。

六・一六集会へ、ぜひどうぞ！

1ページのおしらせのように、運動の山場を迎えて共修へもうひと息！ 六・一六集会（一九八四年度運動方針にある「決起集会」）を開きますので、お誘い合わせの上ご参加下さい。場所は左の通り。

